妻出雲臣眞土賣、年參拾陸歲、　丁妻　左中指黑子
男出雲臣秋守、年貳拾肆歲、　左掌黑子略○中
女出雲臣秋刀自賣、年拾漆歲、　少女　左腕黑子略○中
女出雲臣春刀自賣、年拾肆歲、　少女　上脣黑子
姑出雲臣比良賣、年陸拾玖歲、　耆女　鼻黑子
女出雲臣麻呂賣、年參拾漆歲、　丁女　右頰黑子
男少初位下出雲臣馬長、年參拾壹歲、　正丁　右掌黑子、位子、略○中
安麻呂、年肆拾肆歲、　口於黑子略○中
與富呂、年拾壹歲、　頤黑子略○、中
須留賣、年貳拾玖歲、　鼻於黑子略○中
志多美賣、年拾陸歲、　右臂黑子
伊岐賣、年玖歲、　右高頰黑子略○下

〔宇治拾遺物語六〕いまはむかし、天竺に留志長者とて、世にたのもしき長者ありける、略○中心のくちおしくて、妻子にもまして從者にも物くはせきすることなし略○中人はなれたる山の中の木のかげに、鳥獸もなき所にてひとり食ゐたり、略○中帝尺きと御覽じてけり、にくしとおぼしけるにや、留志長者が形に化し給て、我家におはしまして、略○中たから物どもをとり出してくばりとらせければ、みなみなよろこびてわけとりける程にぞ、まことの長者はかへりたる、○中あれは變化の物ぞ、われこそよといへどもきゝ入るゝ人なし、略○中こしのほどにはゝくそといふものゝあとぞさぶらひし、それを去るしに御覽せよといふにあけてみれば、略○下

〔源平盛衰記五〕一行流罪事